

「風立ちぬと松尾芭蕉と戦争と真骨頂」の関係



映画「風立ちぬ」をやっと観て来ました。(世の中から半年くらい遅れて生きてます)

テーマは「矛盾を超えて生きる！」ということだと感じました！

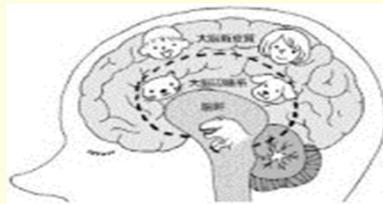
確かに各方面で矛盾を指摘されています。以下まとめ。

- ①飛行機を作るのが夢なのに、それは戦争の道具であるという矛盾
- ②仕事に本腰を入れたい、だから結婚するという矛盾
- ③道端で貧しい子供たちにお菓子を差し出すが、作っている飛行機で日本中の子供たちに1か月くらい満腹にさせることができるという矛盾
- ④結核を患っている妻の横で煙草を美味しくくゆらせている矛盾
- ⑤主人公の子供時代の声優の上手さと大人時代の声優？の下手さの矛盾
- ⑥アニメの夢の世界と戦争の現実世界を融合させるという矛盾

矛盾のオンパレードですね。矛盾を指摘され批判されるというよりも、監督自体が意識的に映画の中に矛盾を仕込んでいます。

そもそも人間の脳は爬虫類(防衛本能)と哺乳類(感情)と人類(理性)の3つのタイプの脳をサーティーワンアイスクリームの店員さんのように安易に3段重ねた構造になっていますので、もともと矛盾した仕組と言えると思います。

監督自体も自分を矛盾した存在だと強く意識して、それを映画の中で表明し、なおかつそれを超えていこうとされたのではないかと思います。



風立ちぬ とは「風が吹いた！ 生きたいと全身が身震いした！（あるいは生きたい！と全身が身震いした瞬間になぜか風が吹いた）」と自分は勝手に解釈しましたので、松尾芭蕉の言うところの古池や蛙飛びこむ水の音「水音がした！ 旅に出たいと全身が身震いした！（旅に出たい！と全身が身震いした瞬間になぜかカエルが飛びこんだ）」と同列であり、ずっと堂々巡り(矛盾)していた思考が突然、道なく術なくハシゴなく一段上昇する瞬間に発生する共時性(シンクロニシティ)現象の瞬間をとらえた句だと思えます。自己成長バカの自分としては、そのような題名をつけるにあたって宮崎駿監督の心境はもう松尾芭蕉の域に達しているのでは？ という推測のもとにこの映画を観ました。

残念ながら、監督が関東大震災の場면을完成させたときに、なぜか東日本大震災が発生し、感性の赴くままの作品作りが大きな社会的責任感、義務感に変わってしまった末の体調不良、引退宣言だったのではないかと感じました。

これからはジブリの経営状態や興行収入のことも、子供たちの未来のことも、政治のことも一切気にすることなく、芸術家として心の赴くままに、「いま、ここ、やおよろず」の驚きや気づきを表現する短編アニメを創ってってもらいたいと思います。そうしたほうが逆に未来ある子供たちの心に響くというもの。ここから先の作品が奥の細道、十牛図の十番目、本当の宮崎駿監督の真骨頂だと自分は見えています。



しかし、「戦争」というのは前向きに表現するには本当に重いテーマですね。その重さを象徴する2つの石碑があります。一つ目は「パール判事顕彰碑」です。そこにはこう刻まれています。

～時が熱狂と偏見をやわらげた暁にはまた理性が虚構からその仮面を剥ぎ取った暁にはその時こそ正義の女神はその秤を平衡に保ちながら過去の賞罰の多くにそのところを変えることを要求するであろう～



二つ目は「原爆死没者慰霊碑」です。そこにはこう刻まれています。

～「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返ませぬから」～

Q1. 上記2つの碑文を比較して、あなたの太平洋戦争に関する考えを述べよ。

(こんな大学入試の問題が普通に出題される時代が来るといいですね。現代史を必須科目にして、きちんと自分なりの歴史認識を持っていないと日本人はこれからの国際社会に適応していけないと思います。)



副教材はぜひこの本で！

パール判事は太平洋戦争での戦争責任を裁いた東京裁判にインド代表として参加し、十数人の判事の中でただ一人被告全員無罪を主張した方です。

植民地政策という名のもとにアジア全土が欧米各国によって搾取されようとしていた時代の中で、日本もABCD包囲網という経済封鎖で石油というエネルギー源を絶たれ、不平等な条約を迫られ、戦争で現状を打開するしかない状況に追い込まれた中での戦争責任を100%日本人の責任だけで裁けるのか？という問題を提起されました。

また広島原爆死没者慰霊碑に対してもパール判事は「ここにまつてあるのは原爆犠牲者の霊であり、原爆を落したものは日本人でないことは明瞭である。落としたものの責任の所在を明かにして、「わたくしはふたたびこの過ちは犯さぬ」というのなら肯ける。しかし、この過ちが、もし太平洋戦争を意味しているというなら、これまた日本の責任ではない。その戦争の種は、西欧諸国が東洋侵略のために蒔いたものであることも明瞭だ。」と述べられたそうです。

どちらも世間一般のホンネ、ことあるごとに政治家が口を滑らせてしまう問題発言の根っこを代弁していただいているようで、日本人として正直すごく承認された感があります。が、腹の底から息を吐き出して、すべてを飲み込んで、明るい未来に賭ける日本人の姿も非常に禅的で自分は好きです。

我々の工事現場においても災害が発生した時、ミスをした当人の責任だけではなく、管理していた作業責任者、事業主、元請け、発注先と遡って重層的に原因を究明していきます。

重層的な要因を誰かのせいではなく、自分のポジションで全部引き受けて再発防止対策を実践継続していくと、振り返ると事故を起こす前より格段に自分の安全意識と会社の安全体制が進化していくと自分も教わってきました。

仮に原爆まで投下された植民地化抵抗戦争であったとしても、敢えて全てを飲み込み、現代史を学び直して史実として間違っていない部分はきちんと主張し、しかし民意として心情的に迷惑をかけたアジア諸国にもう1度きちんと謝罪し、英霊に陰で手を合わせ、他国に配慮したおもてなしの心のこもった製品群を次々と創りだす。ことさらに平和を謳わなくともその製品、その行い自体に平和がしみ込んでいて世界中の人たちがそれを内心理解し称賛している。国力が衰えたとちよっかいを出してくる国が必ず現れるので、経済は常に強く、先を見た研究開発、平和的でバランスのとれた国際人育成で世界をリードしていく。他国への恨みをバネに成長していくのではなく、セルフイメージが健全に上がっていく楽しさを原動力に自己成長していく。そこに未来の子供たちの自負心が宿るのではないのでしょうか？

もう少しで平和ボケして免疫不全症民族として滅びるところをお隣さんに逆に目を覚まさせてもらった感があります。千年、真顔にな致団結した日本人の強さと言ったら半端ないでしょうね。日本人の真骨頂もこれからです。

感謝！ 羽原篤史



(世界が絶賛した、ホームと電車の中に挟まれた女性救出画像)(全員作業責任者現象)

P. S. 1「道祖神の招きにあひて取るもの手につかず (旅に出たくて何も手につかない)」と芭蕉の一節を引用された駐日米国大使キャロライン・ケネディさんは日本人の心を驚掴みにされました。アメリカの国益優先と日本親善の矛盾を超えて、キャロラインさんらしさで多くの気づきと癒しと新しい日米関係をもたらせてもらいたいものです。この方の真骨頂もこれからですね。



http://www.youtube.com/watch?v=Xtan6G23_io

P. S. 2 この方も今年、日本人として真骨頂を見せてくれました！

<http://www.youtube.com/watch?v=8XOpo2KwF8Q>

投手の本能でもある、速球で三振を取る快感を捨て、変化球に活路を求めた先にあった上原投手の真骨頂。エゴ的自己成長欲を捨てた(超えた)先にこそ本当の自己成長(真骨頂)はあると言われています。

http://www.youtube.com/watch?v=0duG5WFk_xs